

# 小田原城 裏路地 名所 MAP

## ～小田原かまぼこ通り編～





夜の風情も見ものだ!  
小田原城が最適。  
はんなりと四季を楽しむなら  
様々なアングルから  
眺める美しさは見所!  
同時に「はなだいこん」の  
群生もひそかにひろがっている。  
春の息吹がそこかしこに  
見受けられる。  
年々広がる城郭に  
咲き誇る桜を、

小田原城の季節の楽しみ  
戦国時代に関東を治めていた  
後北条氏の居城が「小田原城」。  
明治になつて再建された  
小田原城址公園では、  
春の息吹がそこかしこに  
見受けられる。

年々広がる城郭に  
咲き誇る桜を、



温暖な気候が育む片瀬の柑橘や、曾我梅林に代表される梅、相模湾の海の幸を満喫!

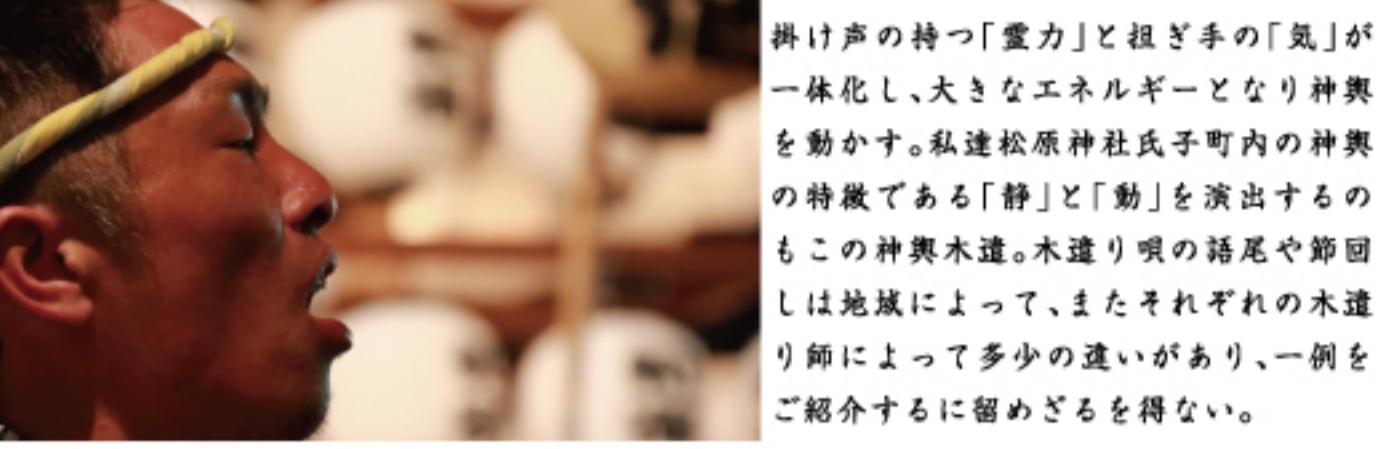
相模湾に面する温暖な気候と海・山・川の揃った豊かな自然に恵まれた小田原。片瀬エリアでは関東屈指の柑橘が栽培され、相模湾で獲れた新鮮な海の幸を利用した小田原かまぼこや小田原おでん、戦国武将の北条氏が根付させた梅の食文化など山海の美食を楽しめる。

小田原の松原神社氏子町内で受け継がれる、神輿の運行に「木遣り唄」は欠かすことのできない。当地の神輿には木遣り師がいて、木遣りによって神輿を動かす。静止した神輿を前に木遣り師が木遣りを唄う。最後に木遣り師が唄い終わるか終わらないかの間合いで、振ざ手は掛け声をもともと勢い良く手に出す。これは当地のかつての漁業者達が、網引唄(漁木遣り)で網を一齊に引き揚げる動作と符合する。



木遣り師>ソリヤーアセー 木遣りしや二分でも  
<漁夫>(網をつかんで)ソラドットコセー  
<木遣り師>掛け声頼むぞ  
<漁夫>ヨーヤイアヨイトコセ、ヨイトコセ  
(3節に分けて網を引く)

## 木遣り唄



漁木遣りは過酷な重労働にリズムと活気を加えるのに優れた効果を發揮した。

掛け声の持つ「靈力」と振ざ手の「氣」が一体化し、大きなエネルギーとなり神輿を動かす。私達松原神社氏子町内の神輿の特徴である「静」と「動」を演出するのもこの神輿木遣。木遣り唄の語尾や節回しは地域によって、またそれぞれの木遣り師によって多少の違いがあり、一例をご紹介するに留めざるを得ない。



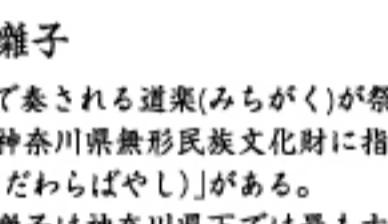
## 魚がし山車

小田原には50台以上の山車(屋台)があると言われる。その多くは1階部分に出格子が取り付けられ、2階部分は数多くの竿提灯(ほおぢき)で覆われる。そして格子状の屋根の前後に唐破風がしつらえてあり、その上には屋根瓦、下には鷺添が付けられているのが一般的だ。さらに様々な彫り物や真鍮の隅金具で飾られているのも多く見受けられる。山車の運行は現代の交通事情と電線との競い、行く先々で電線が竹竿で電線を吊るしながら進む。さらに最上部の鬼板は漁板で振込から倒れるようになり、いざという時はこれを倒して進む。

例年5月3日から5日の3日間に渡って行われる松原神社大祭。同祭では、魚がし(第23回)の神輿(ブリ)が飾られ渡御する。二、三十年ほど前は景気が良く、同町で毎年のように近隣の漁屋などから廟の寄附があった。そのため恒例のように神輿に飾り付けられており、山車に取り付けられていたことも。しかし景気の悪化や神輿が傷むなどの理由から、漁の盛りは姿を消してしまった。口伝で残されているのみ。正確にいつから神輿が復活し、魚がし山車の歴史は古いという説もあるが、両町内の祭に関する資料は関東大震災の際に焼失してしまって、口伝で残されているのみ。正確にいつから神輿が復活し、魚がし山車の歴史は古ではない。また千歳小路龍宮なども飾っていたことがあったという。漁神輿の復活を望む声は町内で毎年挙がっていたが実現には至らなかった。しかし、近年会合内で「伝統や魚がし山車を出し、人目を引くにはやはり漁神輿をやろう」と決断。そして振ざ手の中から相模湾で獲れた天然ものの漁が寄付され、ついに漁神輿が復活し見物客の注目の的となった。

## 魚がし山車

神輿に取り付けられていた漁は、宮入後には同町公民館目の前の海へと帰された。連体明けの7日、米神で漁は1,000本木揚げされ、大漁旗が翻った。漁を飾り海に帰したことの因縁関係は分からぬが、本来松原神社大祭は大漁祈願などを頼る漁師の祭り。「ご利益だったらいわえ」と同町の糸井茂男自治会長は笑って話している。



## 小田原噛子

山車の上で奏される道楽(みちがく)が発源ですが、小田原にも神奈川県無形民俗文化財に指定された「小田原噛子(おだわらばやし)」がある。

小田原噛子は神奈川県下では最も古く、享保年間から宝曆年間にかけて下總葛西地方から伝わった「葛西ばやし(和歌ばやし)」が独自の発展を遂げたものと言われる。葛西ばやしは、京都祇園ばやしを伝習した神輿・能事場が創作したもので代官・伊奈左衛門が始めたと言われ、これが江戸ばやしのルーツでもあり、小田原には葛西より直接伝えられたため、同じ神奈川県内で江戸を経由して伝わった川崎・横浜のそれとは特徴を異にしている。

## 小田原噛子

小田原名物の漁船料理が食べられる観光名所

・小田原早川漁村

「もっと小田原が誇る海の幸の漁船料理でもなし、最高の思い出をつくってほしい！」という強い想いで、鮮度にこだわり、小田原漁港の目の前に開業している。

## 周

豊富な魚種と1年を通じて漁獲のある、全国でも有数な相模湾にあって、地元定置網の魚ばかりではなく、真鯛、伊東方面などの伊豆半島や二宮、大磯、平塚などの周辺の漁場からも毎日魚が集まる。又、地理的に

みても要衝の地であり西湖バイパスや厚木バイパス(東名高速直結)の出入口がすぐそばにあり、物の通路には適した場所。現在は毎週土曜日に行われる朝市始め多くの鮮魚を活かした料理を堪能できる場所として多くの人々を魅了する。

## 周

小田原魚市場

豊富な魚種と1年を通じて漁獲のある、全国でも有数な相模湾にあつて、地元定置網の魚ばかりではなく、真鯛、伊東方面などの伊豆半島や二宮、大磯、平塚などの周辺の漁場からも毎日魚が集まる。又、地理的に

みても要衝の地であり西湖バイパスや厚木バイパス(東名高速直結)の出入口がすぐそばにあり、物の通路には適した場所。現在は毎週土曜日に行われる朝市始め多くの鮮魚を活かした料理を堪能できる場所として多くの人々を魅了する。

## 周

小田原名物の漁船料理が食べられる観光名所

・小田原早川漁村

「もっと小田原が誇る海の幸の漁船料理でもなし、最高の思い出をつくってほしい！」といふ強い想いで、鮮度にこだわり、小田原漁港の目の前に開業している。

## 周

清閑亭 明治～昭和初期に活躍した政治家・黒田長成(ながしげ)侯爵の別邸として、1906年(明治39年)に神奈川県足柄下郡小田原町(現・小田原市南町)に建てられた。

旧小田原城三の丸外郭土塁の南向き傾斜地に立っており、晴れた日は母屋から真鶴半島や大島が広らう相模湾や箱根山を一望できる。

建物は、格式ばらない敷石(すきや)風造り院庭で、平屋と二階屋が連なる。建物内には板繪絵や網代組天井など優れた意匠も見ることができる。

長城候は号を桜谷(おうこうく)とし、漢詩集「桜谷集」をはじめ、多くの漢詩や書を遺し、また、東京都港区赤坂の本邸のほか、福岡市、沼津市にも別邸を構えた。

(清閑亭以外は現存していない)

## 周

かまぼこ通りやその周辺には30店舗あまりの様々な店舗が軒を連ねる。場も開いてもなく、自由に敷策でさじっくり食べて飲んで、買ってディープに楽しめ。単身で歩くもよし、夫婦やカップルでゆったり

楽しめ探検しながら楽しむのもおすすめ。

## 周

鱈吉 大学酒蔵

あかね 大学酒蔵

